

令和 6 年度富山県職業能力開発審議会 議事要旨

日時 令和 6 年 7 月 29 日(月)

午前 2 時～3 時 30 分

場所 富山県民会館 701 号室

○出席者（委員 9 名、特別委員 5 名）

＜労働者代表委員＞ 大森委員、和田委員

＜事業主代表委員＞ 安田委員

＜学識経験者委員＞ 川本委員、経田委員、國枝委員、鳥山委員、中村委員、水井委員

＜特別委員＞ 臼田特別委員、河村特別委員（代理）、前澤特別委員、小玉特別委員、
水落特別委員

1 開 会

2 富山県商工労働部長挨拶

本日、委員、特別委員の皆様には、御多用の中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。

さて、少子高齢化や労働人口の減少に直面する中、本県産業が持続的に発展していくために、ものづくりを担う人材の確保、育成を進め、労働生産性を高めることが重要な課題となっております。

県におきましては、経済社会の変化や企業の人材ニーズに対応するため、D X 人材の育成でございますとか、若者、女性、中高年齢者などの多様な人材の特性を踏まえたきめ細やかな職業訓練の推進、技能の振興、技能労働者の地位向上のための環境整備など、各種の職業能力開発施策を積極的に展開しております。

特に 4 月からは、県の技術専門学院の学科の見直しや訓練用機械器具の充実などを内容としますリニューアル事業を実施し、「ものづくり県とやま」を支える人材の育成に取り組んでいるところでございます。さらに、県内企業の生産性向上や、とやま人材リスクリング補助金による働く方々のリスクリングへの支援にも努めております。

本日は、現行の第 1 1 次職業能力開発計画の進捗状況などについて御報告させていただくとともに、現計画の期間が来年度までとなっておりますことから、令和 8 年度を始期といたします次期計画の策定について御議論いただきたいと存じます。

委員の皆様には、幅広い視点から、忌憚のない御意見を頂戴できますようお願いいたします、開会に当たってのご挨拶とします。何とぞよろしくお願い申し上げます。

・ 委員紹介

・ 配付資料の確認

3 議題

●議長

それでは、これより審議に入りたいと思いますが、皆様の活発な御意見をお寄せいただければと思っております。

まず最初に、議題1、第11次富山県職業能力開発計画の実施状況について及び議題2、第12次富山県職業能力開発計画の策定について、これらを一括して事務局から説明をお願いいたします。

(1) 第11次富山県職業能力開発計画の実施状況の報告について

(2) 第12次富山県職業能力開発計画の策定について

事務局（労働政策課長）より、資料に基づき説明

○資料1-1 第11次富山県職業能力開発計画の概要

資料1-2 第11次富山県職業能力開発計画 実施状況

資料1-3 令和6年度職業能力開発施策の概要

資料2 「第12次富山県職業能力開発計画」の策定について（案）

資料3 職業能力開発計画ニーズ調査（案）

議題1、議題2につきまして、まとめて説明させていただきます。

まず、議題1について、資料1-1を御覧ください。こちらの資料を使って簡単に概要を御説明いたします。

まず、第1部、総説にございますとおり、計画の期間は令和3年度から令和7年度までの5年とされております。

第2部で現状と課題といたしまして、社会経済の潮流や雇用の状況、県内企業における職業能力開発の状況、職業能力開発の推進体制の状況について分析をしております。

その分析を踏まえまして、第3部で実施目標を5つ設けております。この5つの目標を達成するためにどのような施策を進めていくかについては、第4部の基本的施策と展開において説明しているところでございます。

続きまして、資料1-2を御覧ください。こちらは、今申し上げました計画の実施状況の概要の資料でございます。

1ページ目を御覧ください。こちらは昨年度までの状況について資料でまとめたものでございますけれども、今回はポイントを押さえた上で説明をさせていただきます。

まず、目標1の経済社会の変化に対応するための人材の育成について、まずデジタル技術の活用等による生産性向上を担う人材育成の強化のところでございます。県内のデジタル分野の離職者向け訓練については、令和3年度から令和4年度で定員を約倍増させており、令和5年度も継続しています。

また、富山県技術専門学院においてもデジタル分野の施設内訓練を行っていきまして、学卒者では電子情報科とメカトロニクス科、在職者向けには能力開発セミナーを設けております。

2ページ目をおめくりください。目標2の女性・若者・中高年齢者や特別な配慮が必要な方（障害者・外国人・就職氷河期世代等）の育成ということで、今回は女性・若者・中高年齢者の関係について御説明します。

まず女性の関係ですが、女性の再就職に向けた多様な訓練メニューの提供ということで、離職者向けの民間委託訓練につきましては、女性のライフスタイルに合わせた多様な求職ニーズに応

えるために、簿記や会計実務、医療事務、IT関連技術、介護福祉など幅広い分野について、技専での職業訓練に加えて民間委託訓練も実施しているところでございます。

また、ものづくり分野の訓練に関しては、女性枠を設定しまして、女性の職域拡大にも努めているところでございます。

子育てなどで訓練に通いにくい女性の方もいらっしゃることから、技術専門学院のOA事務科に関しては、ハイブリッド（対面やオンライン）での訓練ができないかを、昨年度、試行実施を重ねてまいりました。その結果として、女性の受講者数、就職者数について、記載のとおりとなっておりますけれども、就職率はおおむね7割から9割程度で推移している状況でございます。

続きまして、3ページ目を御覧ください。若者の職業能力開発への支援です。

こちらは先ほど少し申し上げたところですが、技術専門学院の普通課程において学卒者訓練として、自動車整備科とメカトロニクス科、電子情報科という3科を設置してまいりました。

また、県の職業能力開発協会におきましては、若年技術者人材育成支援事業等の実施の中で、ものづくりマイスターの方が中小企業等で若年技術者への実技指導や技能士を活用した意識啓発事業等を実施していただいております。

また、同じような形で、高校生に対してもものづくりマイスターの方が直接指導を実施しているということで、これらは毎年多くの人が参加している状況でございます。

続きまして、4ページ目を御覧ください。（3）中高年齢者の職業能力開発への支援ということで、離職者向けの職業訓練の中で中高年齢者向けの訓練も実施しております。また、とやまシニア専門人材バンクで、高齢者向けの県内企業とのマッチングの支援をしております。こちらは高齢者の方で働きたいという方が多いということと、企業からのニーズも高いということで、令和5年度は新規登録者数、登録企業数、新規就職者数ともに過去最高を記録しているところでございます。

6ページ目を御覧ください。目標3のものづくり産業の発展を支える人材の育成です。

ものづくり人材の育成に関しましては、技術専門学院において学卒者訓練や離職者訓練、在職者向けの能力開発セミナーの3コースを設けて実施しているところでございます。

また、在職者向けの能力開発セミナーに関しては、個々の企業の要望に応じて日程やカリキュラムなどの調整を行って、オーダーメイドで行う在職者訓練も実施しております。こちらも記載のとおり多くの受講者が毎年参加しているところでございます。

続きまして、7ページ目を御覧ください。技能の振興やものづくりを支える機運の醸成です。

技能検定の実施や、技能検定に係る功労者等への表彰などを実施して、機運の醸成を図っているところでございます。

続きまして、8ページ目を御覧ください。4、産業構造の変化や地域ニーズに対応するための人材の育成で、介護分野や建設分野に関しては求人ニーズが高いため、技術専門学院において離職者訓練の充実を行っているところでございます。

9ページ目を御覧ください。最後になりますが、職業能力開発の推進体制の整備でございます。

まず、県が行う職業能力開発の向上・改善ということですが、技術専門学院リニューアル事業などの実施で、訓練機器を導入して訓練環境の改善を図っているということと、国や県、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構や民間訓練機関、産業界など、様々な関係者と連携会議などの開催を通じて連携促進をしているところでございます。

以上の説明で、能力開発計画のこれまでの実施状況についての概要を御説明いたしました。

続きまして、資料１－３を御覧ください。本年度の富山県職業能力開発施策の概要についてですが、技術専門学院における学卒者訓練については、技術専門学院のリニューアル事業が開始されています。メカトロニクス科とされていた科が機械・制御エンジニア科に今年度からリニューアルしております。また、電子情報科につきましても、電子情報／ＩｏＴ科にリニューアルして今年度から開始されているところでございます。

続きまして離職者向けになりますが、短期訓練のところで、造園管理科という科から造園土木科に今年度からリニューアルしております。

また、事務系の科に関しては、ＩＴ・ビジネス事務科という形でリニューアルして、ＩＴパスポート等の資格取得などを強化しています。

また、「ものづくり女性」育成の推進に関しましては、事務系の訓練になりますが、一部訓練のオンライン化を進めているところでございます。

続きまして、２ページ目を御覧ください。予算事業の主な取組です。１つ目が富山県技術専門学院リニューアル事業として、産業界の人材ニーズや求職者のスキルアップに向けた訓練ニーズを踏まえて、富山技術専門学院において学科の見直しなど訓練環境を整備するため、下に写真がございまして、総合実習装置やマシニングセンタやボイラーシミュレータなどの環境を整備しているところでございます。

また、とやま人材リスクリング補助金事業では、国の人材開発支援助成金と歩調を合わせるような形で、県独自で県内企業が生産性向上のために行う従業員のリスクリングに対して経費の一部を補助するという事業を実施しておりまして、令和６年１月には補助対象を拡充しているところでございます。

これで議題１の説明は終わります。続きまして、議題２の第１２次富山県職業能力開発の関係について御説明させていただきます。

資料２を御覧ください。こちらは第１２次計画の策定について、策定の趣旨を記載してございます。職業能力開発促進法でまず国が計画を策定するとされていまして、それに合わせる形で都道府県ごとに計画を策定するように努めるとされているところから、新たな計画を策定するものとしております。

計画期間ですが、令和８年度から令和１２年度までの５か年を計画しております。

計画の内容につきましても職業能力開発促進法で規定がございまして、これまでどおり、①技能労働力等の労働力の需給の動向に関する事項、②職業能力の開発の実施目標に関する事項、③職業能力の開発について講じようとする施策の基本となるべき事項という形にさせていただければと思います。

続きまして、大まかなスケジュール感ということですが、まず本日の審議会で、第１２次計画策定の諮問をさせていただければと思います。

また、後ほど御説明させていただきますが、計画に先立って毎回ニーズ調査というものを実施しておりますので、その調査案の審議をさせていただければと思います。そこで今日御審議いただいた内容を踏まえて、秋頃にニーズ調査を開始し、年度内をめどに取りまとめるということをしてイメージしております。

来年度になりますが、来年度は本格的に計画の策定の段階に入りまして、まず第１回目の審議

会で骨子案についての協議、第2回目の審議会で、中間案という形で素案の公表・審議をさせていただければと思います。それを踏まえてパブリックコメントをした上で、第3回審議会で答申と計画の最終案についての協議をした上で、令和7年度中には会長から知事へ報告をしていただいた上で、計画の策定を完了させたいと思っております。

※のところにも記載させていただいておりますが、国の次期職業能力開発計画も恐らく同時進行で動いていくものと思っておりますので、そちらの状況も参考にしながら県の計画を策定していきたいと思っております。

また、併せてですが、第12次計画の策定については、当審議会に対して知事から諮問がなされております。机上に諮問文の写しが配付されておりますので、そちらも御参照いただければと思います。

続きまして、資料3を御覧ください。こちらは、先ほど申し上げたとおり、令和6年度職業能力開発ニーズ調査（案）という概要紙になっております。

こちらの調査としては4種類の調査を予定しております、①事業所対象調査、②在職者対象向けの調査、③求職者対象向けの調査、④学生対象向けの調査を予定しております。

こちらの調査（案）につきましては、経年での比較などもするという観点で前回の調査を基本的には踏襲するような形を考えていますが、令和3年度に技術専門学院のニーズ調査をしておりますので、そのときの調査内容でこちらへ取り込めるものがあつたりとか、加えて、今回いろいろな状況も変わっており追加した事項もございますので、今回は追加や修正したところを中心に御説明をさせていただきます。

まず、事業所対象については、調査対象は県内に本社または支店・営業所を有する事業所・工場等の経営者で、標本数は約2,000件です。設問数は38問という形になっております。

調査項目が下に列挙されておりますが、まず2の人材の過不足感と求める能力のところでございますが、人材の過不足感、今後の対応策の質問の選択肢の内容を少し修正してございます。

3番目の従業員の職業能力開発の一番最後のポツ、教育訓練の課題に関しましては、こちらは前回も質問項目がございましたが、選択肢の内容を修正させていただいております。

6番目、DXの推進状況についてのところです。まず、1ポツ目にテレワーク等の取組というところがございますが、こちらは令和2年度、前回調査でもテレワーク等の取組について伺っておりますが、前回はコロナの影響調査の観点で伺っているところを、今回はDXの推進の観点で伺っているところが修正されております。

あとは、事業所におけるDXの推進に関する取組の状況、こちらについても前回からありましたが、回答の仕方などを修正しているといったところでございます。

デジタル人材充足度については、令和3年度の技専のニーズ調査を踏まえて質問を追加してございます。

7番目の公共職業訓練機関に関しまして、4ポツ目のところに公共職業訓練施設のことを知っていたかや、早期退職制度の有無、再就職支援としての公共職業能力開発施設の案内を行っているかや、公共職業能力開発施設の広報媒体として効果的なものといった質問を追加しておりますが、こちら令和3年度の技専のニーズ調査の質問内容を参考に追記しております。

また、県の施策及び技専の訓練への意見・要望は、設問自体は前回あったんですが、質問の仕方を修正しているといった点がございます。

②の在職者対象調査につきましては、調査対象は事業所対象調査の対象となる約2,000社の中から500社を無作為に抽出した事業所等の従業員1社当たり2名の方に行うということを考えております。標本数としては1,000件です。設問数は全体で13問という形になっております。

こちらに関しましては、3番目の職業能力開発に関わる現状及び意識の項目で、2ポツ目のところに現在取り組んでいる教育訓練といった項目がございますが、こちらは今回新たに追加したところございまして、今リスクリングの注目が高まっているため、公共職業訓練に限らず、自身で行っているリスクリングも含めて、幅広く回答いただく形で質問を追加しております。

また、4番目の公共職業能力開発施策への要望関係の対面／リモート授業の選択や技専の在職者訓練で受けてみたい講座の質問に関しましては、令和3年度の技専のニーズ調査の質問内容を参考に追加しております。

最後の公共職業訓練施設に対する意見、今後受けてみたい訓練等については、質問自体は前回もありましたが、質問の仕方を修正しています。

次が、求職者対象の③に関してですが、調査対象に関しましては2つありまして、1つが、県内のハローワークと県人材活躍推進センターの窓口相談に来た方等を対象としています。2つ目として、ポリテクセンター富山や技専の受講者を対象としております。対象標本数としては約1,000件で、全設問数は21問を予定しております。

前回からの修正点としては、2就職に対する希望条件について、就職に当たって参考にする情報や、仕事を探す上で自分に足りない、必要と思うことに関しては、3年度の技専ニーズ調査の内容を参考に追加しております。

また、4番目の職業能力開発の状況で、現在取り組んでいる教育訓練というところは、先ほどの在職者対象と同じ理由で追加しております。

また、5番目の公共職業能力開発施設への要望のところ、障害のある方が習得したい技術や資格、対面／リモート授業の選択、公共職業訓練施設の広報媒体として効果的なもの、これは令和3年度の技専ニーズ調査の質問内容を参考に追加をさせていただいております。

最後になりますが、学生対象の調査でございます。こちらの対象は、技術専門学院や北陸職業能力開発大学校、富山高等専門学校に在籍する学生を対象としておりまして、授業の前後等にアンケートを実施することを予定しております。標本数としては約500件、質問数は13問という形になってございます。

こちらに関しましては、4の職業能力開発に関する考えということで、3ポツ目の公共職業訓練施設の広報媒体として効果的なものという設問を、令和3年度の技専のニーズ調査の質問内容を参考に追加をしているところでございます。

私からの説明は以上でございます。

●議長

ありがとうございました。ただいまの事務局の説明に対して、御質問、御意見をいただければと思います。御質問、御意見がございましたら。

●委員

ありがとうございました。幾つか質問させていただきたく存じます。

1つ目は、参考資料3の2ページのデジタル技術の利活用等による生産性向上を担う人材育成の強化ということで、すごく重要なことだと思います。デジタル技術の育成。ですが、令和5年度を拝見しますと、定員75人の中で50人しか受講していないということなんですけれども、こちらは何で少ないのか。前からもちょっと少なめなんですけれども、もしかして教える内容とかと関連しているのかもしれないので、どのような内容を教えているのかというところと、もう一つは、その下のほうの大学や試験研究機関におけるDXを担う人材の育成やリカレント教育の充実というところも、社会人向けセミナーですとかは具体的にどういう内容をされていたのか。中身をちょっと教えていただきたいです。あとは、その次のページの未来のDX人材とかeスポーツはすごく面白そうだなと思いました。

あと、8ページ目なんですけれども、女性の職業能力開発への支援ということでハイブリッドの実施試行をされたようなんですが、この効果はどんな感じだったかとか、実施試行されたということで、もしかして実際にはハイブリッドにならなかったのかなというのがちょっと気になりました。

あとは、資料1－3に「ものづくり女性」を対象にしたプログラムがあったと思うんですけれども、託児サービスとかオンライン化とかはすばらしいと思うんですけど、でも、多分子育てとかで大変なのは男性もいると思うので、ぜひこのサービスは、男性も受けられるように、託児サービスとかオンライン化とかができるようにするとよいと思います。あとアンケートなんですけれども、アンケートで、たくさんいろんな項目で選択肢を、例えば1つ目の事業所対象のアンケートについてなんですけど、例えば問2－2で、当てはまるもの3つまでと限定しているんですけれども、私はアンケートを作るのが専門でいろいろ教えているんですけど、選ばせる場合って、通常は最も該当するものを1つまたは該当するものを全て選ばせるようにしています。順位をつけさせたりとか3つとかに限定すると、結果が影響を受け、統計的な分析も難しくなります。そこで、3つに限定する必要があるものなのかというのもお伺いしたいところです。

以上です。

●議長

ほかに皆様から御質問あるいは御意見がございましたらお願いいたします。

特になければ感想でもいいのですが、皆さんから1人ずつお伺いできればと思いますけれども、よろしいですか。

●委員

いろんな取組をされているということで認識させていただきました。

ただ、これが本当に皆さん方に浸透しているのかどうかというのが、課題というか疑問に思ったところもありますので、こういういい成果の取組については、どういう形で共有するのがいいのか、ちょっと難しい点もありますけれども、それを皆さんが共有することによって、もっと進展する、あるいは活用してもらえるとということにつながっていくんじゃないかなと、そのような状況です。以上です。

●議長

どうもありがとうございました。

それでは、何か感想でも結構ですので、御意見等お願いいたします。

●委員

感想になるんですが、先ほどの質問でもあったんですけども、女性のところで、実際に言っ
て、計画に対してそれほど増えていたりしていないところを考えると、もう少し女性に対しても
そうですし、女性が習得しやすくなる環境って、多分男性にもなると思うので、そういうところ
の広げ方というのもやっぱり必要なんじゃないかなとは思って見ていました。

それぞれの実施状況の中でも、それほど数字が増えていないのはそれなりの理由があるのかな
と思いますので、今、委員が言ったような浸透度とかというの、結構今後の課題になってくる
のではないかなと思って伺っておりました。

以上です。

●議長

どうもありがとうございました。

それでは、お願いいたします。

●委員

御説明いただいた実績について、非常に幅広く多方面にわたって施策をされているような形な
ので、こちらについては本当に、教育は単年ではなかなか成果が出なくて、継続しないと駄目だ
と思っていますので、引き続き継続していただきたいなということです。

あと、先ほど委員からもありましたが、こういったいい活動を、より県全体といいますか。企業
にもよりPRしていただいて、定員に行っていないものも一部あるようにも思いますし、あと、
基準が分からないのでよいのか悪いのかはちょっと分からないところもあるんですが、よりたく
さんの方に御活用いただけるような形になればいいなと思ひまして、そういったふうにPRされ
たらどうかと感じました。

以上でございます。

●議長

どうもありがとうございます。

次、よろしいですか。御意見あるいは御感想でもいいんですが。また、10月に予定されている
ニーズ調査についても、何か御意見があったらお願いいたします。

●委員

たくさんの方のことを御説明いただきましたので、逆に取組に関して何が問題点であるかというこ
とを二、三点列挙していただいて、それに関してこのようにするというのをいただいたほうが、
よく理解できるのかなという感じがいたしましたが、いろいろ細かいことも御説明いただく中、
例えば資料1－3あたりに、ビジュアルで載っているの、これは分かりやすい説明だと思ひま

すが、例えば総合実習装置（模擬建築物）なんていうのがあったりしますが、こういう取組が本当に社会のニーズに合っているのかなと。私は建築が専門でございますので、ちょっとそんなふうに思ってしまうわけですが、新築が少なくなる中、このストラクチャーの研修自体が本当に社会のニーズに合っているのかなと。本当はもう少し仕上げとかリフォームの事業に関するものがあってもしかるべきなのかなんていう感じが直感的にはしちゃうんですけども、そういう問題点を明確に少しお話しただいて、今後アンケートも含めてこんなふうに施策を取るという御説明をいただきたいなと。これは御要望も含めて、そんなふうに感じました。

以上です。

●議長

ありがとうございました。続きまして、いかがでしょうか。

●委員

説明の中にあったかもしれませんが、それぞれの取組というのはいろいろ多岐にわたって考えてあると思うのですが、定員に対しての募集の人数に開きがある場合、受けた方からはどういう感想になっていたのかとか、受けた方がどのような効果を受講したことから得たのかとか、そういうことを含めての調査があるかどうかということ。

それから、この人数に達していない原因というのは、PR不足なのか、内容不足なのか、どうなのかな。あるいは期間の問題なのか、時期の問題なのか、いろいろ考えられると思うのですが、それに対して何かなさったことはあるのかな、どうなのかなとは思いました。

以上です。

●議長

ありがとうございました。よろしいですかね、回答はまとめて大丈夫ですか。

それでは、引き続き、お願いいたします。

●委員

いろいろたくさん御説明いただいてありがとうございました。昨年までやられたことについては、いろいろやっておられるんだなということで、特にここをこうしたらいいみたいな感じはなかったんですけど、ニーズ調査という資料3のところだけ、ちょっと感想というかコメントさせていただくと、①事業所対象の中の6番のDXの推進というのがあるんですけど、これはニーズを把握するためにこういうアンケートをとることだと思うんですけども、DXって非常に概念が広くて、ニーズといっても多分なかなか出ないのかなという感じがします。今ちょっとアンケートの中身を見せていただいても、今やっていますかというものがほとんどなんですけど、結果としてやっていないというのがあっても、やりたくないからやらないのか、やれないからやらないのかみたいなお話が多分分からないと、ニーズ調査とはなかなか言えないんじゃないのかなという気がしました。

DXというのは、ここにIoT、AI、RPAと書いてあるんですけど、技術名に無理やり割り当てるとこうなるのかもしれないんですけども、結構本質は文化破壊みたいなところがあって、

これまでの文化から抜けられないというところが大体うまくいっていないという感じがしますので、そういった技術的というよりは文化的なところの側面を少し調べられるようなことをしたらいいんじゃないのかなということをちょっと感じました。

私は以上です。

●議長

ありがとうございます。それでは、お願いします。

●委員

私からは、資料3の④学生対象のアンケートについてちょっとお尋ねします。

回答の属性とかが書いてあるんですけど、約500件を想定しておられますけれども、このうち女性の数をどれぐらいと見込んでおられますでしょうか。

というのは、昨年の日経新聞12月14日だと思うんですけど、男性より女性が県外に出ていく割合が高い県、私の記憶では富山県はワースト5の中に入っていたと思うんですけど、12月14日の日経新聞では都道府県別のデータが載ってまして、ワーストは栃木県の2.45倍、2番目は富山県の2.32倍。つまり、女性と男性が就職や進学を機に富山県を出ていっているんですけど、富山県は男性が出ていっている数の2.32倍の女性が出ていっていて、元に戻ってこないわけですね。

そうすると、簡単に言えば女性のほうが高倍率で地方を出ていっているので、結婚適齢期の男女の比率からすると女性がかかり出ていっているので、少母化になっている。母になり得る数が少なくなっているんですね。だから、富山県の厳しい現状があって、人口減少の大きな原因になっていると私は考えています。なので、職業能力を高める議論そのものが近い将来成り立たなくなるのではないかと、私は大変心配をしています。

なので、若い女性がなぜ県外に行くのかとか、どういう観点で仕事を選んでいるのかという学生を対象にしたアンケートはとても大事な、しかも女性をどれくらいの割合でアンケートの中に入れようとしているのかという観点はとても大事な観点だと私は考えているので、約500件、あるいはどういう感じで学生から意見を吸い上げようとしておられるのか、具体的な割合を教えてくださいたいと思います。

●議長

ありがとうございました。それでは、お願いします。

●特別委員

気づいた点だけ。

現在ものづくりの現場では、少子高齢化を背景に、人材の育成確保とか技能の継承が喫緊の課題となっております。

国レベルで言いますと、定年延長に加えまして、今、人手不足分野での外国人労働者の長期就労を促進する施策として、技能実習制度の見直しも今後予定されているところです。

県レベルでは、やはりハロートレーニングで着実に訓練生を増やし、県内就職につなげていく

ことが大切なのかなと思っています。こうした中、技専でリニューアル事業として魅力ある学科の見直しに取り組んでおられます。PRも含めて強化されて、効果に期待しているものであります。

以上であります。

●議長

ありがとうございました。それでは、引き続き御意見をいただければと思いますが、よろしくお願いいたします。

●特別委員代理

最近の職業能力開発における国の施策ですけれども、成長と分配の好循環による、物価上昇を上回る持続的な賃上げの実現に向けてということで、リスクリングによる能力向上支援、個々の企業の実態に応じた職務給の導入、成長分野への労働移動の円滑化という三位一体の労働市場改革を進めることとされているほか、昨年12月にはデジタル田園都市国家構想総合戦略という閣議決定された中では、職業訓練のデジタル分野の中堅化を推進することが掲げられておりまして、DXの進展などで産業構造の変化の加速化が見込まれる中、生産性や技能・技術の向上のために必要な人材の確保・育成が求められている状況でございます。

こうした対応が求められている中で、富山労働局といたしましても地域のニーズに対応した人材育成を推進するために、富山県の皆様をはじめ関係機関の皆様と連携を図りながら、職業訓練の積極的な周知・情報発信の取組を進めております。特にIT関連とかウェブデザインなどのデジタル分野に係る職業訓練を拡充して、社会全体のデジタル化に対応した人材育成を推進しております。

DXの加速など、企業、労働者の方を取り巻く環境が急速に変化しておりまして、労働者の方の職業人生の長期化も進行している中、労働者の方の学び直し、リスクリングの必要性も高まっております。

従業員の方の能力開発、企業の生産性向上に向けた取組を促すために、従業員に対して職務に関連した専門的知識とか技能の習得、能力向上支援に取り組む企業様を支援するために、国では人材開発支援助成金というものの活用も図っております。富山県さんでもリスクリング補助金という制度がありますけれども、そういった補助金と一緒に、職業能力開発を支援する企業様を支援していきたいと考えております。

●議長

ありがとうございました。続きまして、お願いいたします。

●特別委員

私はまず最初、質問を1つ。うちと近いということで、学卒者訓練の入校者が、資料1-2の3ページに載っていますけれども、これの女子は何人ぐらいいるんでしょうかというのを1つ、まず聞きたいと思います。

というのは、先ほどのアンケートにどのぐらい女子が入っているかという話があったんですが、

それも多分、これは高専がどのくらいなのか私はあまりよく分かっていませんが、少なくともうちは非常に少ないですので、何とかしなきゃいけないというのはずっと言われておりますし、考えているんですが、それはまさに、先ほどの女子がどんどん出て行ってしまって富山県からいなくなってしまうというのも、富山県はやっぱりものづくりが盛んな県ですし、実際そういうものづくりに携わる女子の人材を育成していかないといけないというのはずっと思っております。

実は、私のところは魚津市なものですから、魚津市長から北陸能開大も20%女子が入るようにしろと言われているんですが、どうしたらいいのかなという感じではあるんですが、先ほどから女性のリスキリングというか、そういう訓練の話は出ていたんですけども、もっと言うと、2年とか4年とか、大学で工学部とか、そういう感じの高度ものづくり人材として女性が増えてほしいなと。そうしないと富山県としてもものづくりの県としてやっていけないんじゃないかと。

それをするのにどうしたらいいか。これは私もずっと言われて、私は前任が富山大学の工学部でしたので、そこでもやっぱり女子学生が全然少ないと。特に今回、今年あたりは電子・電気は非常に志望者が少ないと非常に問題になりまして、考えてみれば、最初から高校生の半分しか相手にしていないような状況になってしまうと、これは本当にまずいので、ということで、いろいろ考えてはいるんですが、この辺について、実はそれがこの職業能力開発審議会の議題なのかどうか、あるいは範囲なのかどうかさえよく分からないんですが、ただ、その辺から解決していかないと難しいんじゃないかというのは感じております。ということで、そこまで含めてもう少し何か考えていかないといけないというのが私の感想です。

以上です。

●議長

どうもありがとうございました。それでは、引き続きまして、お願いいたします。

●特別委員

たくさんお話を聞かせていただいております、私自身も、社会情勢＝労働人口減少だとか人材の不足、労働人口の流出といったお話を聞かせていただきまして、当機構ポリテクセンターとしましても、局、県、関係機関の皆様と御協力させていただきながら、事業に取り組んでいかないといけないと改めて感じているところです。

当ポリテクセンターにおきましては、一定の就職率であったり、地域企業さんへの再就職という部分で一定の数値を達成させていただいているところではありますけれども、私どもの施設におきまして同じように、定員充足率という部分ではかなり苦勞している部分もありますので、引き続き皆さんのお話を聞きながら、参考にさせていただきながら、県の能開計画に沿ったような形で当施設も取り組んでいければと考えている次第です。

以上です。

●議長

ありがとうございました。それでは、最後になりますが、お願いいたします。

●特別委員

今、子供たちの数がどんどん減っていく中で、富山県内でも県立高校をどうしていくかということが、今、議論の中心になっております。

子供たちが県内で就職してくれるように、職業科も魅力ある職業科にしていかなければいけないと。特に今、魚津工業とか砺波工業の欠員がすごく大きくて、その魅力化をどうやって図っていくかというのが非常に中心になった話になっております。

職業科を卒業する子供たちが、ここ数年、県内で100%近くの就職をしているんですけども、ただ、やはり3年以内で離職する子供が多くて、2回目、3回目の就職をしていくという子供たちがたくさんいます。

そういった子供たち、求職者になるのか、2回目の学卒者みたいな形になるのか分かりませんが、そういった若い子供たちが引き続きまた富山県内で就職して活躍していけるように、やっぱり職業訓練というのは非常に大事なところなんだと思っております。

なので、私どもも職業科に入ってくれる子供たちが多くなるように頑張っていきたいと思っておりますけれども、そういった子供たちがその後、ずっとまた富山に残ってくれるように、職業訓練もこの後うまくやっていっていただければと思っております。

以上です。

●議長

どうもありがとうございました。皆様方から多数の御意見と御質問をいただきましたが、これから回答をいただくことになるかと思っておりますけれども、まだ言い足りなかったというか、気がついた点がありましたら。

お願いいたします。

●委員

今、委員がおっしゃった女性の県内定着は確かに産業とすごく関わっていて、女性は第3次産業で働くことが多いので、第2次産業が盛んな当県だと、働き先がないと感じてしまい、女性が流出しやすいというのがございます。

なので、1つは女性が第2次産業で働きやすくするというのと、あとは魅力的な第3次産業をつくるとか、既にある魅力的な仕事や働き方を紹介するということはすごく重要だなと思っております。大学レベルのものづくり人材で女性を育成するというのも重要ですし、高校レベルで工業高校とか高専とかで女性がもっと入るように、例えば中学生ぐらいのときから仕事の選択肢を紹介する。あとは、ロールモデルがあまりいないと思うので、例えば富山県の番組で、活躍している大学レベルで理工を学んだ女性でもいいですし、工業高校とか高専とかを出て活躍しているような女性の働き方を紹介するとか、そういうのをやられるといいのかなと思っております。

●議長

ありがとうございました。ほかによろしければ、まとめて回答ということでお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。

●事務局

様々な御意見や御質問をいただき、ありがとうございました。順番が前後するかもしれませんが、順に御説明させていただければと思います。

まず、デジタル分野の民間委託訓練や能開セミナーの具体的な内容は何かという御質問があったと思います。

デジタル分野の民間委託訓練は様々なものがございまして、一概に言えないところではございますが、I T活用のスキルや、I Tリテラシーなどの基礎的な習得の関係に於ける訓練を御用意させていただいている状況です。

また、在職者向けの能力開発セミナーにつきましても、こちらにも様々なコースがありますが、例示で言うと、C A Dの初級や、あとはJ w _ c a dに関するものとか、そういったものづくりの関係も含めてデジタル分野における基礎的な講座を御用意させていただいているところでございます。

また、訓練の一部をハイブリッド化するというところで、実際にできたのかというところではございますが、こちらは昨年度試行をしまして、今年度から一部オンライン化ということで、対面とオンライン両方でできるようにという形で進めさせていただいているところでございます。

また、託児サービスのところが女性向けという説明の仕方になっていたが、男性も今の時代であれば使うのではないかとこのところは御指摘のとおりだと思いますので、そちらの説明の仕方は今度考えていきたいなと思います。

また、アンケート調査の選択肢の選び方などの御意見に関しましては、いただいた御意見を踏まえて検討させていただければと思います。

また、幾つか女性の関係で御質問がございました。

まず、技術専門学院の入校者に女性がどれくらいいるかというところですが、今年度に入った1年生の方で言いますと、自動車整備科全体、入校者数は20人いましたが、その中に女性は1名でした。機械・制御エンジニア科に関しては、入校者数5人のうち、女性は該当なしです。また、電子情報／I o T科に関しては、全体で10人で、そのうち2人で、全体として入校者数35人のうち女性は3人で、限られた人数となっております。

県外に女性が流出してしまうとか、そういった御意見もあったと思いますが、やはりものづくりというところで、女性をいかに引きつけられるかというところは今後重要になってくると思いますので、御意見の中にあつたとおり、女性で県内の企業に就職して活躍している方も数多くおりますので、そういった方のモデル事例という形でP Rなどをしながら、1つの選択肢として、女性も含めて、ものづくりの部分で活躍してもらえるようにしていかなければいけないなと私どもも感じているところでございます。

また、御質問の中で、学生対象調査の中で女性がどれくらいいるのかというところですが、こちらは学生全数調査のような形になっておりますので、この学校にどれくらい女性がいますかというところではございまして、今、正確な数字は把握できていませんが、今いる状況という形になりますので、恐らくそこまで多くないものと思っております。

ただ、それで声が拾えないということにはならないように、工夫をしていきたいと思っております。

また、資料説明のところでは、いろいろ説明してもらったけど、結局何が言いたいのかというところ

ころで、もう少しポイントを絞ったほうがいいのかという御指摘をいただいたところでございます。

確かにいろいろ情報量が多くて分かりづらいところもあったと思っております。

この第11次職業能力開発計画は5か年なので来年度までという形になっていますので、令和5年度が折り返し地点で、来年度が最終年度という形になるので、最終年度に向けて、この計画の評価というか、どれぐらい達成できていたのかというところについては、今後検証していかなければならないと考えております。

また、定員に至っていないコースとかも結構あると思うが、そこに関して、なぜ定員に至っていないのかというところが分かればというお話もあったと思います。それがPR不足なのか、中身なのか、時期なのかとかいろいろあると思うがという話があったと思いますが、これはコースにもよりますし、恐らく、要素としては、御指摘いただいたところ、全て複合的な要因かと思っております。

まず、今かなり求人ニーズが高く必ずしも訓練を受けなくても就職できるという雇用状況にあるかと思えますし、また御指摘があったとおり、なかなかPRがうまくいかず、こういう訓練があるということがなかなか労働者の方や企業の方に知られていないということもあると思いますので、その点は今回のニーズ調査の中でこういった周知・広報の仕方があるかということも聞いていきたいと思えます。

内容や時期に関しましても恐らくそういう要因もあると思いますので、そこは一つ一つ分析して、次の年度のコースの策定に向けて考えていきます。

大体御質問いただいたところは網羅できたと思っておりますが、回答漏れ等あれば御指摘いただければと思います。

●議長

ありがとうございます。ただいま御質問に対して回答をいただきましたけれども、今の御回答を聞いた上で、さらにまた何か御質問あるいは御意見がございましたら対応したいと思います。いかがでしょうか。

そしたら、お願いいたします。

●委員

ありがとうございます。委員もおっしゃったように、いろんな要因を正確に特定して、やっぱりそこをまた改善する必要があるので、既に参加している人だけでなく、今後対象になりうる人たちからも意見を吸い上げる必要があるのかなと思いました。

でも、内容は、私は全然このDX系とかは素人なんですけど、もしかしたらホームページ作成とか動画作成とか、ITを本業にしている人じゃなくて、普通に商売している人とか、ものづくり系に関わっている人が自分の事業を紹介するのに役立つようなスキルみたいなのが学べたら、すぐに利用できそうな、そういうコースがあったら受けたい人もいるかなと思ったんですけど、もしかしたらどのぐらい大変なのか分かりませんが。

以上です。ありがとうございます。

●議長

ありがとうございました。今アイデアをいただきましたけれども、いかがですかね。参考になりますかね。

●事務局

参考になります。ありがとうございます。

求職者対象調査というのを今回御用意しておりまして、その中で施設への要望というところも設けているので、今委員から御指摘いただいたような内容は、ここでまず把握していきたいと考えています。

あと、ホームページとかの何かコースがあるのかというところがあったと思いますが、少し関連することとして、能力開発セミナーという在職者支援の講座の中で、SNSを活用したDX活用といったコースなども用意しているので、そういったところも我々としても周知していきたいと考えております。

●議長

ありがとうございました。ほかは皆様方から追加の御質問あるいは御意見がございましたら、お願いいたします。

●委員

ここでの話として適切なのかどうか分からないのですが、富山県にいる男性、女性をいかに富山県にとどませるかと言うと、何かすごい窮屈な県のような気がするんですね。自由にいろんなところへ行ってごらんって。でも、富山に帰ってきたらこんないいことがあると伝えるとか、あと、県外から富山の大学とかに進んでくださっている方もいて。今年の春の高岡での新入社員の集いで、熊本から富山大学へ来て、高岡の鋳物産業のところに勤めている女性が先輩として話されていました。ものづくりのすばらしさというか、高岡はすごいよということを彼女がすごく語ってくれたんですね。そういう視点というのはあまり知られていないなと思うので、せっかく魅力を感じて富山に来てくださった人に対して、富山ってこんなすばらしいところもあるよねってもっと魅力を発信していけるような、何かそういう場所があったらいいなと思いました。

彼女は熊本という地元を離れたかったと言っていたので、富山でもそういう人もいるだろうから、「富山にいろ」と言われるとちょっとどうかなと思うので。幅広く羽ばたいて、でも、「また戻ってきたらいいことがあるよ」のほうが、緩い縛りのほうがいいかなと私自身は思っています。

●商工労働部長

今の点、まさに先週金曜日に人口未来構想本部という、県庁で人口問題を話し合う会議を知事を筆頭に開催しておりまして、移住促進を進めていこうという議論でも行いまして、いわゆる移住されてきた方の目線からしっかり情報発信をするべきだという議論も行われまして、移住者の数で言うと、最近で言うと1,000人ぐらまで増加していまして、かなりの規模になってきたということが報道でもされておりました。

その会議の中で少し御紹介すると、富山県というのは必ずしも転出超過が多い県ではないとい

うことをデータで示しておりまして、例えば新潟県ですとか石川県、福井県と比べましても、県外に流出した人と入ってくる人を引いた数でございますが、これは全国で見てもかなり少ない方になっておりまして、一部メディアでどんどん若い人が出ていって大変だという御意見があるんですが、逆に戻ってこられる方もたくさんおられます。なので、全国で県外流出が本当に深刻な県、例えば広島県ですとか静岡県、愛知県、こういった県から比べると、程度の問題はそれほど大きくないというのが1つの客観的な数字でございます。

もう一つが、若い女性が製造業をあまり好まないのではないかという御意見も一部聞かれるんですが、富山大学とか県立大学の学生にアンケートを取ってみますと、女性の第2位に製造業が来るような時代になっておりまして、少し前のきつい、汚いという3Kと言われたような時代からすると、大分製造業の姿も変わっておりまして、そういった姿をきちんと発信するというのは非常に大事だと思いますし、その観点で、ちょうど8月に中高生と富山で働く女性の交流会というものを開催し、これは製造業だけではないですが、ロールモデルとなっていていただくような方との交流会も積極的に展開をしていきます。

もう一つ、最後、富山はものづくり県ということなんですが、従業者数で見ると4分の1ぐらいが製造業で働いている方、13万人程度が製造業でございますが、4分の3が、逆に言うとそれ以外の産業で働かれている方々で構成されているということになっております。そういう意味で言うと、就労人口という意味で言うと、ものづくり産業で男性・女性比率を見てみますと、富山の製造業の男性・女性比率は全国の平均よりも高く、女性が32.2%となっておりますが、全国で言うと30%です。したがって、かなり現状でも女性が製造業で多く働いている県ですし、それをどう伸ばしていくかという話ですし、人数で見ると、その4分の3の、例えば医療現場ですとか、あるいはサービス業で働いている方々、こういったところでむしろこれから若い方がどんどん就労人口が減ってくるところを、どう労働人口としても確保していくのかという目線感が大事ではないかという議論がございましたので、今回、産業との関係での御意見を幾つか頂戴しましたので、その客観的なデータとして発言させていただきました。

私からは以上でございます。

●議長

どうもありがとうございました。皆様からほかに御意見、御質問等はございませんでしょうか。

富山県の人口が減る、あるいは女性がどんどん県外に出ていくという話もありましたけれども、県外に出ていってもまた帰ってくる、あるいは県内に残る女性がいてくれると富山県の人口が増えてくるんじゃないかなと感じているところです。

県外に行かなくても自分で会社を起こせば、県内でスタートアップ企業というのを起こせば、県内にとどまっていだけるし、自分で好きなことができるんじゃないかなと思っています。富山県もスタートアップの支援をしっかりとやっていますし、それは市も含めてスタートアップをどんどん進めているところでありますので、そういった観点でも見ていったらいいのかなと思っています。

以上で皆様方からの御意見、御質問等はないようですが、よろしければ本日の議題についてはこれで以上となります。

資料3にありましたニーズ調査については、先ほど話がありましたけれども、皆様方からの御

意見を踏まえまして修正いたします。おおむね本日の資料の内容にて実施するということになるかと思いますが、それでよろしいでしょうか。

●委員

ニーズ調査のことですか。

●議長

はい。このニーズ調査、資料3。あえて御意見があれば、今この際。

●委員

後でもいいんですけれども。

●議長

後ででも結構です。

●事務局

もし後からというものがあれば、意見用紙に書いていただいて、メール等でお送りいただければと思います。

●議長

ありがとうございました。お配りされているところに意見用紙がついていたかと思いますが、それを御利用くださいということです。

ほかに特に今この場でというものがありませんでしたら、お願いいたします。よろしいですか。

どうもありがとうございます。

ほかに御意見、御質問等がないようですから、以上で審議会を閉会いたします。事務局にマイクをお返しいたします。

●事務局

会長、どうもありがとうございました。

それでは、事務局より事務連絡を申し上げます。

本日の議事録については、事務局で取りまとめ、委員の皆様の御発言の内容について、それぞれ御確認いただいた上で、富山県のウェブサイトに掲載したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

それでは、これをもって令和6年度富山県職業能力開発審議会を閉会いたします。

お疲れさまでございました。

— 了 —